

第三者審査委員会

「ecolon」の認定は社内審査ではなく、専門家や有識者の方々による第三者審査委員会で審議していただいています。審査基準を満たした商品だけを「ecolon」として販売しています。

また、製造事業者の環境調査は、フルハシ環境総合研究所その他の外部機関に現場で審査してもらい、第三者審査委員会で確認しています。



専門家、有識者による審査



消費者からの意見もいただき、参考にしています

消費者からの応援

店舗で販売する商品の品揃えや商品開発は、メーカーと小売事業者が行い、「買う側」である消費者の意見や要望がなかなか反映されていませんでした。ユニーでも商品開発担当者が環境配慮への思いを込めてメーカーと取り組み、製造した商品を販売していましたが、期待どおりに販売数が伸びませんでした。そこで「買う側」である消費者と商品開発担当が一緒に「環境配慮商品」を作り上げ、他の消費者に伝える活動を行いました。

今後はさらに、「どんな商品を開発してほしいか」「開発商品の使い勝手はいかがか」「他の消費者に伝えるにはどうしたらよいか」など、ユニーと一緒に「ecolon」の開発を応援していただきます。

「持続可能性」が生命維持のキーワード

名古屋大学 情報化学部環境学研究所教授 佐野 充

生命の誕生以来、人は、生き永らえること、つまり「持続可能性」を究極の目標にしてきました。だから、私たちは今を生きることが出来ます。しかし、「持続可能性」を忘れた時、絶えた多くの生物と同じ道を歩むことになり、「持続可能性」のある暮らし方は、私たちの責務で、環境と共生した暮らし方です。日々の暮らし方が明日につながり、そして、将来につながります。私たちは日々の消費活動を通じて、子供達の明日に影響を与えています。「ecolon」が、環境と共生できる日常生活を実感でき、「持続可能性」のある暮らし方につながるように応援したいと思います。また、「ecolon」商品が、どんな持続可能性を持っているのか、消費者の皆さんに知って欲しいと思います。

コミュニケーションから生まれる環境配慮型商品

公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 石崎美英

消費者として、毎日の生活に欠かせない買い物に、環境配慮型商品を選択することで「環境にイイこと」が実行できることは、大変うれしいことだと思います。環境配慮型商品を開発・販売する生産者・販売事業者にとっても、環境配慮型商品が多くの消費者に選択されれば、企業として環境問題に貢献できるのみならず、自社の発展につながります。環境問題を考える中で、消費者・生産者・販売事業者が密なコミュニケーションをとることによって環境に優しく、またすべての関係者の満足を得られる商品を開発していくことで、継続的な環境への取り組みを可能にすると考えます。リサーチーズクラブに代表される消費者の声に真摯に耳を傾け、生産者には徹底した情報公開・エビデンス等を求めるユニーの「ecolon」商品に今後も期待します。また、さらに多くの消費者の方に認知・利用され、気軽に楽しく「環境にイイこと、プラス。」が実行されるよう願っています。

エコとスマート

株式会社コボ 代表取締役社長 山村真一

最近のエコ関連のニュースでよく目にする「スマート」という言葉がある。スマートフォンに始まり、スマートハウス、スマートシティである。かつて日本で「スマート」はおしゃれ用語で、カッコイイ等の意味で使用されることが多いが、これは和製英語であり、本来の意味は「賢い」「利口」なのである。このことから、エコ用語としては「分け合う」「やさしさ」等といえよう。東北大学の研究に「90歳リサーチからの発想」プロジェクトがある。90歳のリサーチから、次世代社会への提案である。「少々お借り電力」もその一例である。ケイタイの廃バッテリーを集めた小さなバッテリーシステムにより、冷蔵庫や照明等、小さな電力を集めて使うスマートな「アイデア」が素晴らしい。

これからのエコは最先端ばかりに頼らず、作る人、使う人、売る人がともに、生活目線から見た「スマート」な取り組みが必要になるだろう。

生産事業者を応援

ecolon商品の生産状況を確認する環境監査を実施させていただいています。環境監査では工場経営者の環境への想いや情報開示、マネジメントシステムの運用状況、法令遵守など、さまざまな状況を確認させていただきます。「主要材料の製品安全データシートを入手してほしい」「廃棄物の分別方法が悪い」「染色作業の色替え時のマニュアルと状況写真を提示してほしい」「従業員に環境活動の重要さと作業で生じる汚染の関係を教育してほしい」などecolon商品として認定するためにさまざまな要求を出させていただきます。事業者はそれを真摯に受け止め対応されます。



フルハシ環境総合研究所 環境経営プロデューサー 徳永重生

また、環境監査では多くのことを教えられます。「資源を有効に使うことがコスト削減につながり、環境活動そのものでもある」と断言される工場長、よく整理整頓され礼儀正しい工具さんが働く、創業120年の重みを感じる工場、伝統商品を製造しながらも環境商品への想いを情熱的に語る若い経営者、こうした現場に接した時「この生産事業者を応援したい」と切に思います。

ecolon開発の考え方

環境配慮型商品について

今期は、ecolonの開発に当たり、以下のことを考慮して進めています。

1. **ecolon商品が、ユニーにとって企業価値を上げるブランドであること**：ecolon商品を通じて、「ユニーの環境の考え方」「環境への取り組み」をお客様に伝えていきます。
2. **売れるecolon商品を作ること**：環境に良かれと開発した商品も、売れ残ればゴミになっていきます。売れることを最重視していきます。
3. **環境を前面に出さないこと**：「使った結果がエコ」となるよう、環境の押し付けをせず、お客様に納得いただける商品の開発を進めます。
4. **ユニーに利益を残せること**：利益が出なければ、次の開発につなげていくことができません。販売で得た利益を、商品を通じてお客様に還元していきます。



住関本部 商品企画開発部 菅野誠一

中敷にペットボトルをリサイクルした繊維を一部使用したスリッパ

私が商品開発したスリッパがecolon第三者委員会の審査を通り現在商品として販売しています。お客様から回収させていただいたペットボトルを、わずかではありますが使用させていただいています。リサイクルのストーリーは、ユニー中京地区にてお客様よりペットボトルを回収 →リサイクル工場でのわたにする。→紡績工場にて糸にして、パイル生地にする。→中国の工場にてスリッパにする。→ユニー各店にて販売しています。スリッパ1足に約10gのペットボトル再生ポリエステルを使用しています。ペットボトルが1本約20gとすると、1本で2足のスリッパができる計算です。



住関本部 商品企画開発部 墨 康秀